

建設常任委員会

平成31年2月定例会 報告

委員長； 池田 実 、副委員長； 志田 一宏

委員； 中村総一郎、武野 裕子、大石 和久、松中 健治

(委員長を含めて 計6名 の委員会)

建設常任委員会で審査する市の担当部局

1 まちづくり計画部

2 都市景観部

3 都市整備部

平成31年2月定例会において建設常任委員会に付託された議案等

- 新年度(平成31年度)予算関係議案 4 議案の予備審査
- 現年度(平成30年度)議案 2 議案
(道路認定議案1件を審査、補正予算議案1件を予備審査)
- 報告事項 9 件
- 陳情 2 件
- 請願 1 件

深沢地域整備事業の現状について

1 広域的なまちづくりに係る取組状況について

(1) まちづくりと村岡新駅（仮称）設置に関する合意書の締結

平成 30 年（2018 年）12 月 27 日に神奈川県、藤沢市、鎌倉市の 3 県市で、両地区の一体施行と新駅設置の実現に向け、「藤沢市村岡地区・鎌倉市深沢地区のまちづくりと村岡新駅（仮称）設置に関する合意書」を締結しました。

また、JR 東日本に新駅設置を要望するとともに、戦略的新駅として整備費の負担を求めるため、3 県市で「村岡新駅（仮称）設置協議会」を設立しました。

(2) 新駅設置に関する要望書の提出

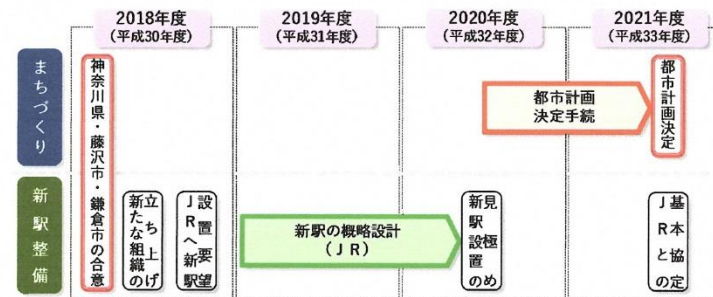
平成 31 年（2019 年）1 月 18 日に村岡新駅（仮称）設置協議会から、JR 東日本に「東海道本線の新駅設置に関する要望書」を提出しました。

《要望事項》

- ・藤沢市村岡地区に、東海道本線の新駅を設置すること。
- ・戦略的新駅として、新駅整備費用の一部を負担すること。
- ・新駅の概略設計について、2019 年度に着手すること。

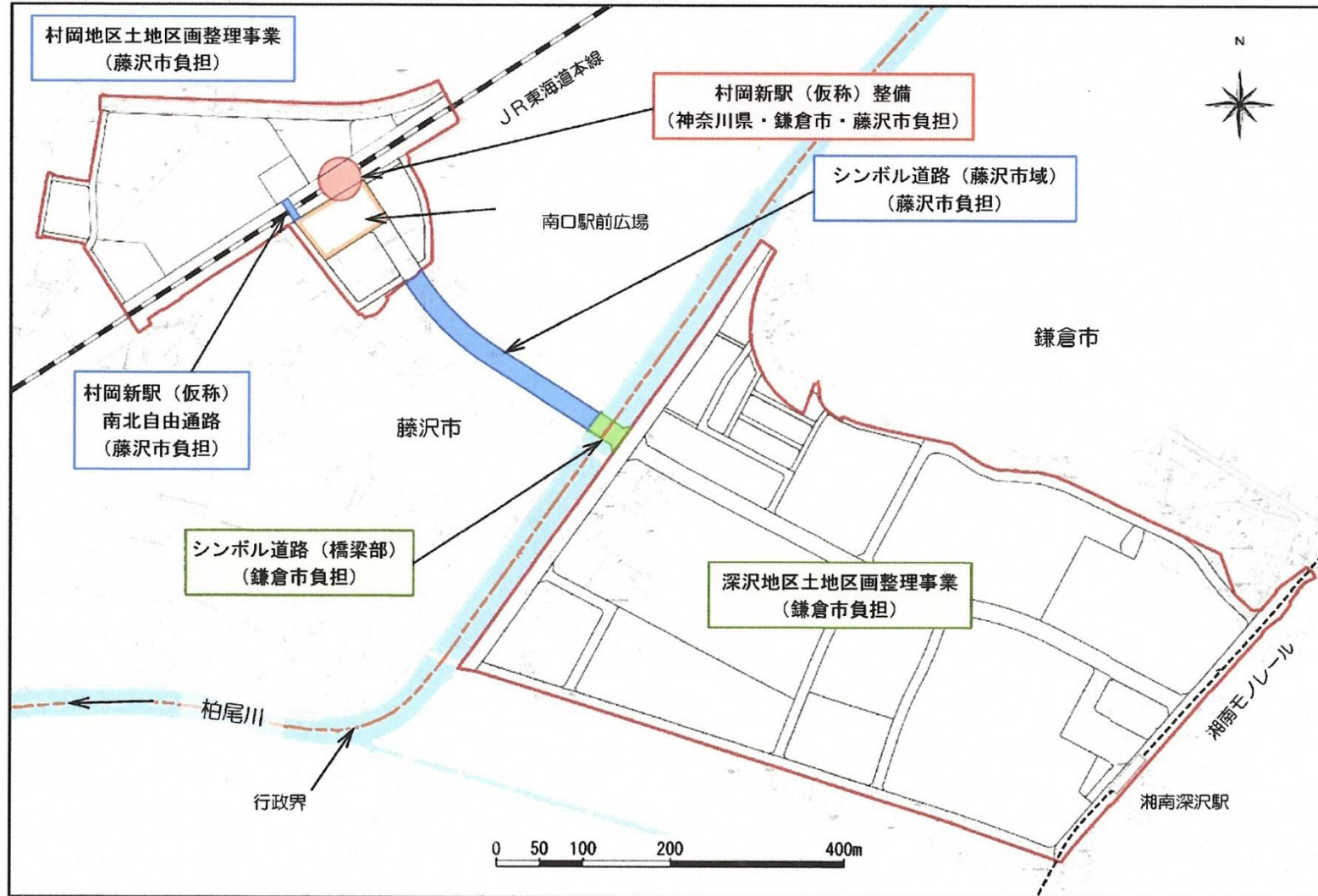
2 事業スケジュール（案）について

村岡新駅（仮称）の概略設計に平成 31 年度（2019 年度）から着手し、土地区画整理事業の都市計画決定は平成 33 年度（2021 年度）を目指します。



※「新立・新組織」：村岡新駅（仮称）設置協議会

■まちづくりの概要図



全体会の対応状況

◆概要 深沢地域整備事業の取り組み状況について及び市役所本庁舎の現状について

◆開催日時 平成31年1月19日（土）
10:00～11:00

◆開催場所 鎌倉青果地方卸売市場
2階大会議室

◆出席者 16名（15件）



◆主な意見

■事業の取り組みについて

- ・両地区一体のまちづくりの状況を両市民に説明してほしい。
- ・藤沢市のまちづくりの情報についても共有ができるようにしてほしい。
- ・まちづくりを進める中で防災への対応にもしっかり取り組んでほしい。

◆フォローアップ状況

32件/44件 済

深沢まちづくりニュース

第36号

平成31年3月発行

発行：鎌倉市深沢地域整備課

Topics

- 深沢地域整備事業の取り組み状況
- 鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会について
- 第32回深沢地区まちづくり検討会全体会の開催報告

深沢地域整備事業の取り組み状況

● 県知事と藤沢・鎌倉両市長でＪＲ東日本へ新駅設置を要望しました！！

平成31年1月18日に、神奈川県、藤沢市、鎌倉市（以下「3県市」という。）で構成する「村岡新駅（仮称）設置協議会」から、ＪＲ東日本に対して新駅設置の要望を行いました。

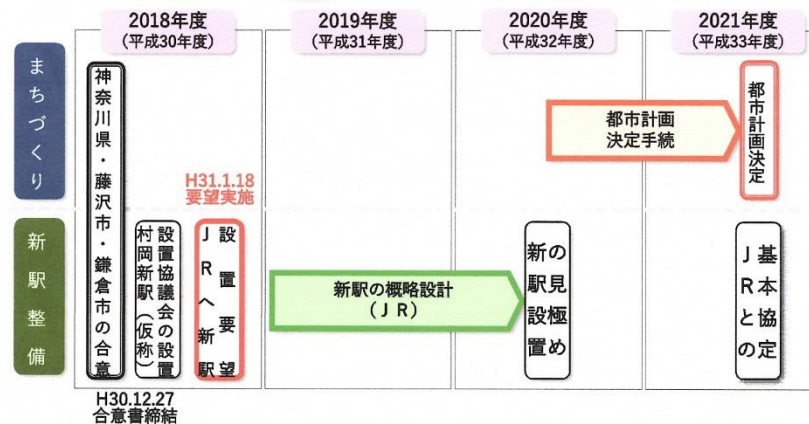
この要望に対し、ＪＲ東日本からは藤沢地区・村岡地区のまちづくりと新駅実現に向けた合意を受け、「しっかり対応させていただきたい」との前向きなコメントを頂いており、2019年度（平成31年度）には新駅の概略設計に着手する予定です。

この概略設計には、1年半程度を要しますが、新駅の工事費や工事期間などの設計の結果を踏まえ、2020年度（平成32年度）に新駅設置の見極めを行い、2021年度（平成33年度）の土地区画整理事業の都市計画決定に向けて手続きを進める予定です。

今後も、神奈川県、藤沢市と連携し、ＪＲ東日本の協力を得ながら、事業の確実な実現に向け取り組んでいきます。



当日は、黒岩神奈川県知事と鈴木藤沢市長と松尾市長から、ＪＲ東日本の社長に直接要望を行いました。



第2回鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会を開催しました

◆実施概要

日 時	平成31年1月29日（火） 10:00～12:00	傍聴者	13名
場 所	鎌倉市旧大船駅周辺整備 事務所会議室	議 事 項	・まちづくり実現化施策について ・土地利用計画の再点検について ・民間事業者ヒアリングについて

◆委員会での主な検討内容

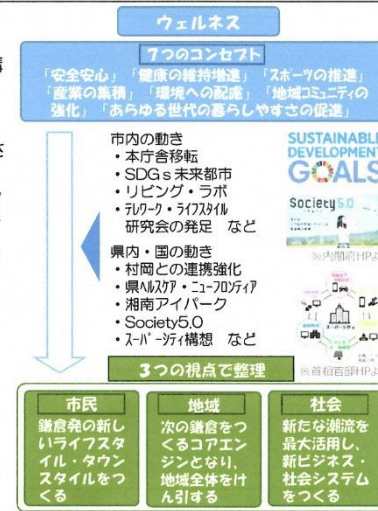
■まちづくり実現化施策について

まちづくりのテーマである「ウェルネス」や平成28年度に策定した「修正土地利用計画（案）」を構成する7つのコンセプトを基に、深沢地区で実施する施策の具体化に向けた検討を行いました。

検討にあたっては、本庁舎の深沢移転、村岡新駅設置の推進、鎌倉市がSDGs未来都市（※1）に選定されるなどの「修正土地利用計画（案）」策定以降の新たな要素を加味するとともに、神奈川県（ヘルスケア・ニューフロンティア施策等）及び周辺企業との連携をはじめ、国の施策（Society5.0（※2）、スーパーシティ構想（※3）等）の動向も視野に入れて検討を行っています。

○委員の主な意見

- ・このまちでもない深沢独自のまちづくりにする必要がある。
- ・総花的な議論ではなく、深沢でやるべきことを絞っていく必要がある。
- ・ウェルネスという言葉が市民にイメージできるように具体化した方がよい。
- ・SDGsの目標設定を具体的に明示していくとよい。
- ・地域に即した課題を落とし込んだマップなどをつくるとよいのではないか。



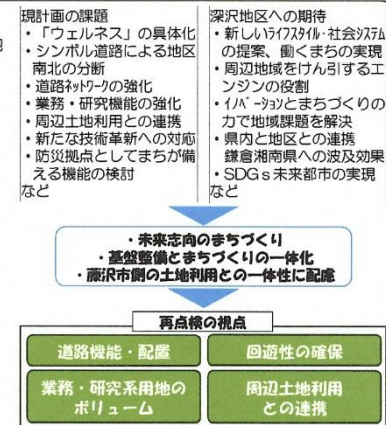
■土地利用計画の再点検について

平成28年度に市民参加のもと策定した「修正土地利用計画（案）」について、コンセプトに沿った施策をどのように具体化するか、これからの社会環境の変化にも対応できる計画になっているかなどを、専門的な視点で再点検します。

再点検にあたっては、現計画の課題と深沢地区に期待することを整理し、「道路機能・配置」「回遊性の確保」「業務・研究系用地のボリューム」「周辺土地利用との連携」といった視点で検討を行いました。

○委員の主な意見

- ・新たな交通システムとまちのあり方なども検討できるとよい。
- ・深沢は新しいまちづくりなので、トランジットモール化（※4）も実現の可能性はある。
- ・藤沢市との連携をもう少し考慮した方がよい。



● 第1回防災部会及び第2回防災部会の概要・検討内容について

◆第1回防災部会 実施概要

日 時	平成30年12月10日(月) 15:00~17:00
場 所	鎌倉市旧大船駅周辺整備 事務所会議室
傍聴者	2名
議 事 項	(1) 深沢地域整備事業の概要及びまちづくりの 考え方について (2) 深沢地区の災害想定と整備計画について ① 津波・洪水浸水、について ② 地盤・液状化・土砂災害について ③ 避難・支援・受援、復旧・復興について

◆第2回防災部会 実施概要

日 時	平成31年1月21日(月) 15:30~17:00
場 所	早稲田大学 西早稲田キャンパス55号館 N棟1階第一会議室
傍聴者	11名
議 事 項	(1) 災害に対する考え方の整理について (2) まち(防災拠点)として備えるべき 機能等について

◆第1回、第2回防災部会での主な検討内容

- 災害全般について
 - ・最大想定規模の災害が来た際に、どのような被害が起きるかを把握しておき、それに対して避難や災害復旧のあり方を考えておくことが大切である。
- 津波について
 - ・県や市のハザードマップからは、深沢地区における津波の危険は考えにくいと判断してよい。
- 洪水・浸水について
 - ・年超過確率1/100の降雨量を一つの基準として、地区の各街区が浸水しないように造成高を考慮することが望ましい。
 - ・年超過確率1/100を超える降雨量に対しては、想定される浸水をしっかりと周知した上でソフト面で対応を図っていくこと。ただし、災害発生時の司令塔となる本庁舎を含む行政施設街区は、年超過確率1/1000の降雨量に対しても浸水しないよう対策を行うことが望ましい。
- 液状化について
 - ・個々の建物においてはそれぞれの責任のもと液状化対策をすることになるが、緊急車両等が通過する道路については、事業の中で対策を施すことが望ましい。
- 避難・受援等について
 - ・本庁舎の受援力の強化として、ボランティアなどの支援の受入れ空間を整備するとよい。
 - ・深沢地区が浸水してしまった後の排水機能について、事前に十分な検討をしておくことが重要。
 - ・本庁舎を含む行政施設街区は、業務継続の観点から、建物の免震構造化について検討が必要。
- ソフト面の重要性について
 - ・防災について、命を守るために『情報を得る』ということはきわめて重要である。そのため、気象・災害情報といった比較的手に入りやすい情報を活用することが重要である。
 - ・地域のコミュニティを活かし、一人ひとりが日々防災について意識することが重要である。

(※1)SDGs・・・「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称。2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年~2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

(※2)Society5.0・・・狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(Society 2.0)、工業社会(Society 3.0)、情報社会(Society 4.0)に続く、新たな社会を指すもので、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会(Society)が、第5期科学技術基本計画において我が国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。

(※3)スマートシティ構想・・・政府の国家戦略特区制度を利用してAI(人工知能)やビッグデータを導入し、自動運転をはじめドローン配達、キャッシュレス決済、遠隔診療などを取り入れて生活する地域を実現する構想。

(※4)トランジットモール・・・一般車両を規制し、公共交通機関を優先した歩車共存の道路。

● 今後の委員会等の予定について

鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会は、平成31年度にかけて全6回、防災部会は、平成31年4月までに全3回の開催を予定しています。

第3回以降の委員会、防災部会の日程については、開催日が決まり次第、市ホームページ等でお知らせいたします。

第32回深沢地区まちづくり検討部会全体会の開催報告

平成31年1月19日（土）に鎌倉青果地方卸売市場2階大会議室において、深沢地区まちづくり検討部会全体会を開催し、「深沢地域整備事業の取り組み状況」「市役所本庁舎の現状」などについて説明を行いました。

権利者の皆様からいただいた主な意見及び市の回答は、次のとおりでした。

○主な質疑

土地区画整理事業関連

- | | |
|--|--|
| Q) 鎌倉市及び藤沢市の双方の担当課で、両地区の情報が閲覧できるようにして欲しい。 | A) 両市で両地区のまちづくりの情報が閲覧できるように検討を行います。 |
| Q) 柏尾川の氾濫に対する安全対策についても確実に取り組んでもらい、新庁舎移転の反対者も説得できる内容の整理をお願いしたい。 | A) 洪水、地震、津波、液状化等に関する対策を講じる必要性や対策方法について、まちづくり実現化検討委員会の防災部会で検討を行っています。想定される災害への対応と考え方をまとめ、関係権利者の皆様へは、最終的なとりまとめができた段階で報告します。 |
| Q) 盛土した場合、雨水が地区隣接の既存家屋周辺へ流出するおそれはないのか？ | A) 地区北側の既存家屋周辺については、地区側の計画道路の方が低いため、降った雨水が地区外に流出することはないと考えています。また、大雨の際には調整池に雨水を一時貯留し（計画では約12,000㎡）、流量を調整しながら柏尾川に排水するため、周辺地区への影響はないものと考えています。 |
| Q) 新庁舎のイメージパースは計画に基づき描かれたものなのか？ | A) 現在、まちづくり方針実現化検討委員会において、道路、建物及び街並みの在り方について検討しています。そのため、パースに描かれている内容はあくまでイメージとなります。 |

その他

- Q) 現在、深沢地区への主要なアクセスとなっている湘南モノレールのまちづくりにおける位置づけは？
- A) 当地区への重要な交通機関であり、まちづくりの推進にあたっては、相互に協力しながら利便性の向上や利用の円滑化を図っていききたいと考えています。



全体会場写真

★お知らせ★

同内容を右記のHPにも掲載しております！！今後も、より良いまちづくりに向け、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

深沢地域周辺地区のまちづくり



計画についての問い合わせ先：

鎌倉市 まちづくり計画部 深沢地域整備課

〒247-8686 鎌倉市鎌倉市御成町18番10号

TEL：0467-61-3760

FAX：0467-23-8700

E-mail：kamafuka@city.kamakura.kanagawa.jp

HP：http://city.kamakura.kanagawa.jp/kyoten/fuka.html

